

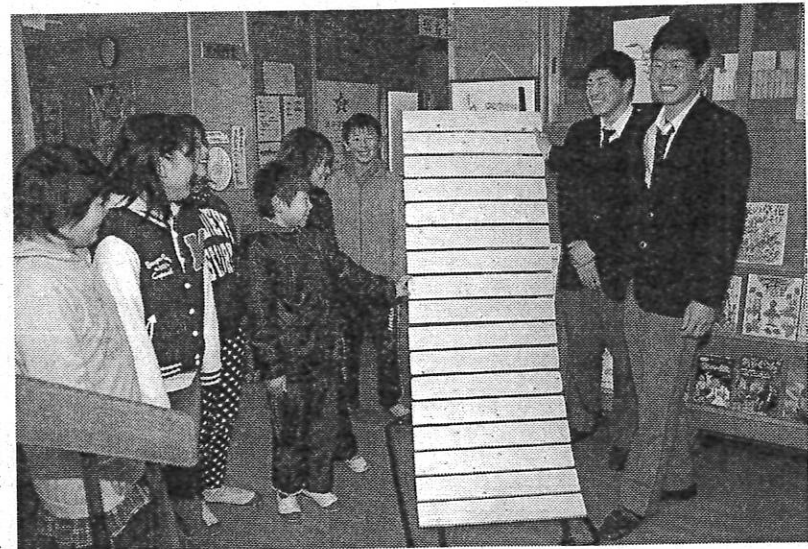
(5) 昭和21年7月10日第3種郵便物認可

田辺市龍神村

手作り体育用具贈る

田辺工業高校 生徒 高徒 メンバーの母校・咲楽小に

田辺市龍神村福井の咲楽小学校(堀修志校長、42人)にこのほど、田辺工業高校機械科の生徒から逆上がりの練習に使う手作りの補助器1台が



中小野寛太君(右)ら田辺工業高校の生徒が贈った逆上がりの補助器と咲楽小学校の児童―田辺市龍神村福井で

贈られた。児童らは「大切にします」と喜んだ。補助器は授業の一環として機械科の3年生5人が沖見衛教諭(58)の指導を受けながら約2カ月かけて作った。5人のうちの中小野寛太君(18)が咲楽小の卒業生だったことから寄贈することになった。これまで、市内の小学校から依頼を受けて機械科の生徒が

手作りした体育用具を寄贈することはあったが、メンバーの母校に贈るのは初めてという。長さ約1.6メートル、幅約80センチ。メンバー5人が作業を分担し、木の板や鉄パイプなどを組み合わせで作った。鉄パイプを図面通りに曲げる作業などが難しかったという。板の角の部分は子どもがけがをし

ないように丸くしている。中小野君はパイプの溶接などを担当した。

この日は、中小野君とメンバーの下平直輝君(18)、沖見教諭が咲楽小を訪問し、補助器をプレゼント。中小野君が「手作りで頑張ったおかげで、ぜひ使ってください」と全校児童に呼び掛けると、児童らが「大切にします」と述べた。

咲楽小の堀校長は「ありがたい。子どもたちにとって、こんな立派な先輩がいるということは励みになる」と話した。

中小野君は「母校に自分が作った物を寄贈できてうれい。板にはみんなで自由に絵を描いてもらいたい」と笑顔。今春、飛行機やロケットの部品を製造する愛知県の会社に就職するという。「人と協力しながらものづくりをするのが好き。この寄贈が小学生にとって機械に興味を持つきっかけにもなれば」と話した。